

ブエノスアイレス日本人学校（その3 日本人学校との関わり）

藤田 悟郎

最初に、小生の記憶に基づいて述べていますので、もし、記憶違いがあればご容赦願います。

<二度のアルゼンチン赴任>

1986年にAR赴任を命じられ、家族ともども赴任し、6年間過ごしました。

この時は、子供たちはまだ小さく、長男も長女も「日本人学校」に入学する前に帰国しました。そして、2年間、日本で過ごし、1993年に再度、家族帯同でARに赴任し、6年間滞在しました。二回目の駐在時は、子供達も、既に小学生で、二度目のAR生活でもあり、長男は小学校3年から中学校3年まで、長女は小学校2年から中学校2年までお世話になりました。日本人学校での生活にも順応していたと記憶しています。

小生は、一度目の滞在時は、学校との関りは、それほどなかったと思いますが、二度目は、責任者として赴任した関係上、学校の役員会にも初めから出席していました。

また、二度目の赴任時は、「日本人学校」も生徒が一番多かった80数名の時代から、駐在員の減少や、単身赴任者の増加、また、子供さんを日本人学校ではなくアメリカンスクールに入れるご家庭もあり、生徒数も28名ぐらいだったと記憶しています。その中で、ニッスイ関係者の子供が7~8名お世話になっていました。

<会長時代>

そして、日本人学校の運営団体であるアルゼンチン日本文化教育協会の会長は、商社と銀行の責任者が交代で務めておられましたが、「子供が実際に学校に行っている人が務めるのがいい」という、商社亜国代表の前任者からご指名を受け、小生が務めることとなりました。まさに「青天の霹靂」という状況でした。

一番気にかけていたことは、「安全」で事故なく子供たちが学校生活をエンジョイして欲しいということでした。当時は、ゴルフへ行く途中で強盗にあたりとか、日常生活に於いて「問題がかなり頻繁に取り沙汰されてきていました。従い、学校へのバスでの行き返りには十分に注意するようにお母様方の協力を仰いでいました。

学校のお隣は一般の家庭で、「やれ、うるさすぎる」、「サッカーボールが壁にあたって迷惑だ」など、苦情もありましたが、当方としても誠実に対応し、問題が大きくなるように努めました。

学校でのイベントも大事な取り組みでした。特に、「体育祭」「学習発表会」は、事前準備もあり、役員はじめ父兄の方々の協力が欠かせない取り組みでした。人数も限られている関係上、みなさんの協力なくしては、折角のイベントの成否に大きく影響する問題でしたが、絶大なサポートを

戴いて取り組めたと思っています。

このイベントで思い出すのが、「イカ焼き」です。小生の会社の主要漁獲物の一つであった「松イカ」を材料にして、この「イカ焼き」を提供するのですが、みなさんから「今度もある？」と楽しみにして戴いていたのが嬉しかったことをよく覚えています。

日本では、この「松イカ」を原料にしてビールのおつまみに出てくる「さきいか」が作られています。

<歴史の長いブエノスアイレス日本人学校>

Bs. As. の「日本人学校」の開校までのご苦勞を宍戸さんのご紹介で初めて知りましたが、小生は、ニッスイに入社して翌 1971 年にスペインのラスパルマスに赴任し、翌々年の 1973 年にラスパルマスでは、フランスのパリと同時に「日本人学校」が創立されています。従い、Bs. As. に 4 年遅れということになります。この時代は、日本人が家族で世界に雄飛していたんだなあ、と強く感じます。小生は、独身時代であり、「日本人学校」との直接の関りはありませんでしたが、それでも先生方との交流もあり、「日本人学校」といえばよく思い出します。(但し、ラスパルマスの日本人学校は生徒数が少なくなり、1998 年に廃校されています。)

全くの余談になりますが、「日本人学校」の理事長をやらせて戴いていた時に、ペルー、チリの「日本人学校」の校長先生が視察に見えられ、お話をする機会がありましたが、ここで、こんなこともあるのかとびっくりしたことがありました。確か、ペルーの校長先生の奥様が、小生と同じ大阪の小学校出身で、「世間は狭い」と感じた次第です。

<思い出の旅：父と娘の新婚旅行>



また、Bs. As. から帰国して 12 年経過した後、2012 年に結婚して、入籍したばかりの娘（左の写真）と一緒に AR 旅行（父と新婚旅行のようなもの）をして、事前の連絡もせずに「日本人学校」を訪問しました。事前に連絡していなかったこともあり、また、安全の問題からなかなか中に入れてもらえませんでした。たまたま、当時、長女を教えて戴いていた現地人の先生が通りかかり、「瑛美、何しているの？」と大声で呼びかけられて、長女は涙目になって、先生と挨拶をかわし、また、小生をご存知の方もおられて一気に問題解決し、楽しく、学校を案内して戴きました。子供たちが残していった手形の確認や、長男、長女が作った卒業制作などを見せて戴き、寺本さんがやられたプールの改装もきちんと確認させて戴きました。



息子と娘が校舎に残した思い出の手形



息子が参加して作った卒業制作

一番驚いたのは、安全の問題から有刺鉄線の柵が一段と高くなっていたことでした。生徒数もさらに減っているとのことのお話しでした。

日本人学校との関りでは、大したことをやったわけではありませんが、多くの方と協力して仕事を進めていくことの愉しさ、喜びを教えて戴きました。ありがとうございました。

(ふじたごろう：当協会業務執行理事)

ラ・パンパ校舎と小生



正面玄関

